

事前評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

令和元年9月2日(月)

研究種別	県単(一般分)課題	
研究課題名	硝酸性窒素等の規制強化に対応した養豚污水处理技術と浄化植物の利用技術の確立	
研究期間	令和2年度～令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.2
[コメント]		
<p>本年7月に、硝酸性窒素等の排出基準が500mg/Lに見直された。今後3年ごとに見直され、最終的には100mg/Lになることが予想されている。このことは、畜産農家、特に養豚農家にとっては喫緊の課題となっており、対策技術の確立が、全国的に要望されている。</p> <p>本研究課題は、既存の硫黄脱窒処理の効率化を図り、さらに残存する窒素を浄化植物により回収する、2つの技術を組み合わせたところに新規性がある。また、これにより得られた浄化植物をたんぱく質源としての活用を考えている点も興味深く、優れている。</p> <p>本課題を実施することにより、水質汚濁法の基準を確実にクリアーでき、さらに浄化植物活用による自給率向上にも寄与できると考えられる。</p> <p>畜産酪農技術センター内で得られるの3年間の結果を基に実証試験をおこなって、養豚農家に導入する際の経費や問題点の解決に展開して頂きたい。</p>		

研究種別	重点化課題	
研究課題名	採卵鶏における快適性に配慮した飼育方法の生産性評価	
研究期間	令和2年度 ～ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.4
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.3
[コメント]		
<p>国際獣疫事務局では、産卵鶏のアニマルウェルフェアのガイドラインを策定しているところ。この中で、従来型ケージの使用が禁止され、改良型ケージもしくは平飼いによる鶏卵生産が推奨される見通し。また外資系の食品メーカーでは、アニマルウェルフェアに配慮して生産された畜産物のみを使用するなど、こうした流れは世界的な潮流になっている。</p> <p>一方、我が国では鶏卵を生で食す文化が根付いており、また土地面積当たりの生産性を考慮する必要があることから、現状のバタリーケージによる鶏卵生産を、すべてケージフリーに転換することは困難である。</p> <p>本研究課題は、鶏の快適性に配慮し、止まり木や砂場が組み込まれたエンリッチドケージを活用し、それにより生産性や鶏卵の品質を調査する内容となっている。採卵鶏における快適性に配慮した飼育に関する研究は、我が国では緒についたばかりである。エンリッチドケージを活用した長期間の飼育や産卵成績、卵質への影響を調べた研究はなく、新規性の高い研究課題と言える。</p> <p>本課題を遂行することによって得られるデータを、バタリーケージによるそれと比較することにより、エンリッチドケージ導入による利点と、収益性に対する影響を明らかにできると考えられる。3年間の課題遂行により得られる結果を基に、どの様に養鶏農家への導入を図れば負担が軽減できるか等、より実用的な研究に展開させて頂きたい。</p>		

事前評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

令和元年9月2日(月)

研究種別	県単(一般分)課題	
研究課題名	不耕起および簡易耕を活用した飼料用トウモロコシの省力栽培技術	
研究期間	令和2年度 ~ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.2
[コメント]		
<p>これまで、自給穀類および粗飼料として飼料用米や飼料イネの活用が図られてきたが、飼料用トウモロコシの普及にも、国として力を入れているところ。本課題は、そうした流れに沿った内容だと考えられる。</p> <p>普及に重要な要因として、省力化が挙げられる。本課題では、不耕起および簡易耕栽培による省力化やシロクローバーを用いたリビングマルチの効果を検討し、さらに機械作業体系の実証を予定。</p> <p>山梨県内では、飼料用トウモロコシの不耕起栽培を検討した例はなく、さらに雑草防除にリビングマルチの導入を検討するなど、内容の新規性は高い。また、本課題遂行により、省力的なトウモロコシの栽培が可能になれば、山梨県内での自給飼料利用の促進と、畜産物の付加価値化にも繋がると考えられる。</p> <p>近年は、気象環境の変化が激しいことから、山梨県内での条件に適した栽培方法を確立することが重要。また、不耕起栽培については、山梨県以外にも取り組みがあることから、そうした事例やマニュアルを参考にして技術の更新を図って頂きたい。</p>		

事前評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

令和元年9月2日(月)

研究種別	重点化課題	
研究課題名	甲州牛増産のための集約的採卵プログラムの確立	
研究期間	令和2年度 ～ 令和4年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.4
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.3
[コメント]		
<p>近年、子牛価格も高騰し、和牛の生産基盤が弱体化する中で、安定的な甲州牛の増産を目指すためには、繁殖技術の向上が不可欠である。このことから、本研究課題は山梨県のみならず、全国的に重要な課題と位置付けられる。</p> <p>本研究は2つの柱を持っており、1つはホルモン処理技術の改良であり、もう1つは短期連続採卵プログラムの確立となっている。これらの技術を組み合わせて、「年1産+1採卵」が確立されつつある現状を、さらに「1.5年1産+3採卵」に発展させるという明確な目標を掲げており、この点が高く評価される。</p> <p>本課題を支えるTAIなどの既往の研究成果も充実しており、確実な研究の進捗が期待される。甲州牛生産農家のみならず、酪農家を含めた収益性の向上に結びつけて頂きたい。</p> <p>一方で、短期連続採卵プログラムの確立においては、牛への負担や生産される子牛の質について、追跡調査をおこなうことを考慮頂きたい。</p>		